

# 平成 19 年消防白書

(平成 19 年 1 月 1 日 ~ 同年 12 月 31 日)

## 火災



住宅火災の出火原因の一位は「こんろ」でした。

平成十九年中に市内で発生した建物火災は七十六件で、うち住宅火災が四十四件(五十八パーセント)発生しました。

住宅火災の主な出火原因は、こんろ十一件、たばこ四件、ストーブ四件、放火・放火の疑い四件、火遊び三件などです。

死者は、建物火災四件(うち全て住宅火災)で五人、全ての方が六十五歳以上の高齢者で、逃げ遅れによるものです。

なお、表中の損害額、建物焼損床面積、出火原因については、調査中の火災があるため数値の変更があります。

## 救急



急病が大きく増加しました。

救急件数は一万一千三百九十二件で、前年に比べ三百二件の増加となりました。

は減を示す

## 火災概況

区分	年別	平成 19 年	平成 18 年	比較
火災件数(件)		162	154	8
火災種別	建物火災	76	82	6
	林野火災	20	14	6
	車両火災	15	24	9
	船舶火災	0	0	0
	その他の火災	51	34	17
損害額(千円)		173,988	277,057	103,069
建物焼損床面積(m <sup>2</sup> )		2,572	3,152	580
死者(人)		5	4	1
負傷者(人)		25	19	6

した。中でも急病が七千四百件と全体の六十一・五パーセントを占め前年に比べ大きく増加しました。次いで一般負傷が全体の十三・九パーセントを占め前年に比べ九十九件増加しています。

## 救急概況

は減を示す

区分	年別	平成 19 年	平成 18 年	比較
出動件数(件)		11,392	11,090	302
搬送件数(件)		10,655	10,370	285
不搬送件数(件)		737	720	17
搬送人員(人)		10,961	10,702	259
事故種別	火災	23	21	2
	自然災害	0	0	0
	水難事故	10	10	0
	交通事故	1,427	1,418	9
	労働災害	121	129	8
	運動競技	68	67	1
	一般負傷	1,582	1,483	99
	加害	77	91	14
	自損行為	153	125	28
	急病	7,004	6,827	177
その他	927	919	8	

## 救助



救助人員が増加しました。

救助件数は百二十件で、前年に比べ八件の減少となり、事故種別でみると交通事故が七十件で全体の五十八・三パーセントを占めています。次いで火災が全体の二十・八パーセントを占めています。救助人員は百五人で前年に比べ十人増加しました。

## 救助概況

は減を示す

区分	年別	平成 19 年	平成 18 年	比較
出動件数(件)		120	128	8
活動件数(件)		76	88	12
救助人員(人)		105	95	10
事故種別	火災	25	33	8
	交通事故	70	67	3
	水難事故	9	7	2
	機械による事故	0	2	2
	建物等による事故	11	7	4
	ガス及び酸欠事故	1	0	1
	その他の事故	4	12	8

## 津市が四月に(仮称)消防防災指導センターを新設します

津市は、津市総合計画(二〇〇八(二〇一七年)の目標の一つである「安全で安心して暮らせるまちづくり」実現の一環として、「(仮称)消防防災指導センター」を四月一日に新設します。同センターは、地域住民の防災訓練や応急手当講習会などの防災と消防の部門の一本化を図り、講師を派遣し、市民の防火防災の意識高揚を図ります。なお、設置場所は現在検討中です。